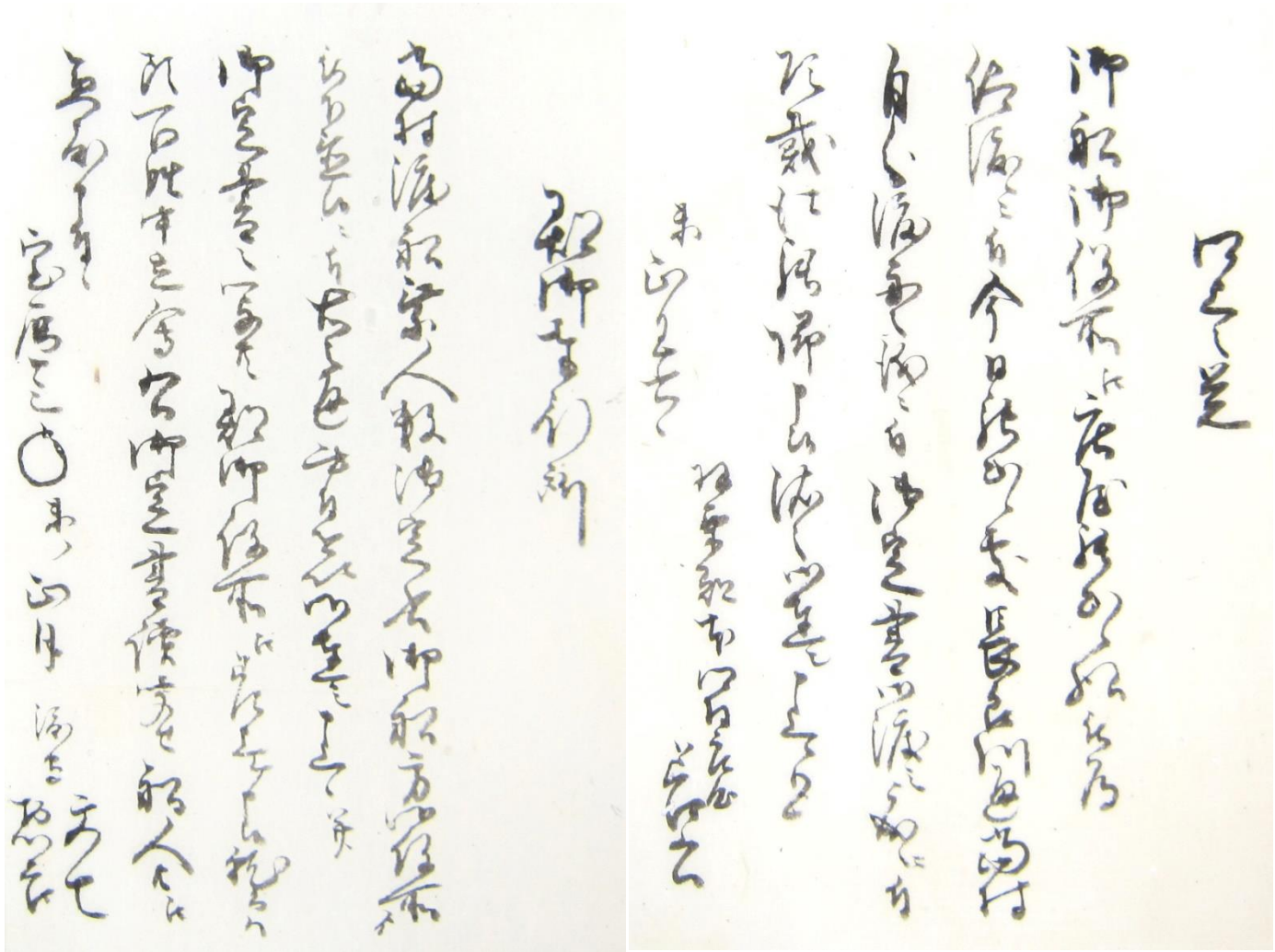
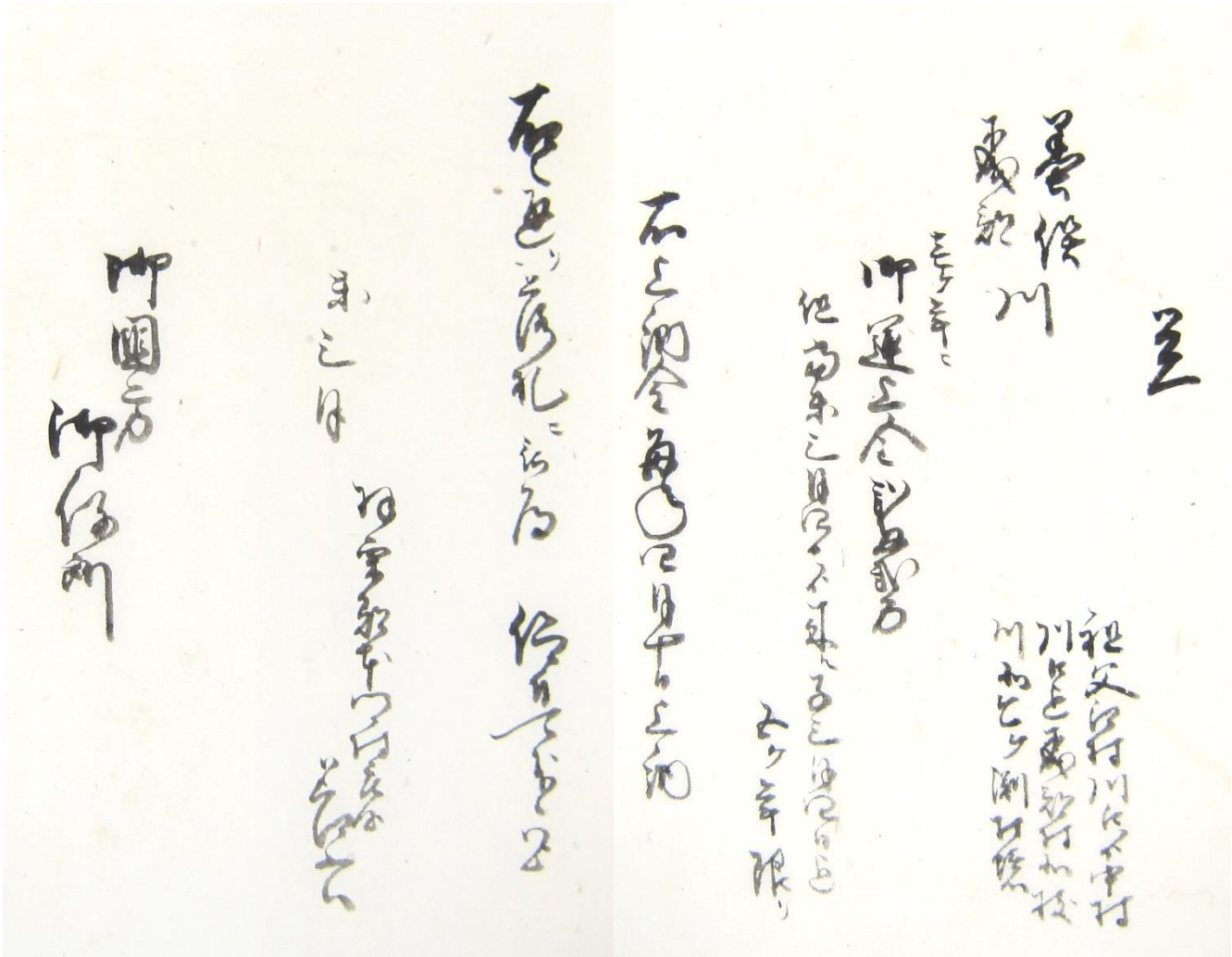


【史料一】



【史料二】



口上之覚

御船御役所江庄屋罷出候様、被為

仰渡候二付、今日罷出候処、長良川通当村

自分渡舟之儀二付、御定書御渡シ被成候二付、

頂戴仕罷帰申候、依之、御達シ申上候、以上

未 羽栗郡本郷村庄屋

正月十六日 善六

郡御奉行所

当村渡船乗人数御定書、御船方御役所より

被下置候二付、右之通書付を以御達シ申上候、并

御定書之写共、郡御役所江差上ケ申候、就而ハ

頭百姓中立会、右御定書読聞せ、船人共江

急度申付候、

宝暦十三年未ノ正月 渡守文七

惣吉

覚

祖父江村川口より中村

墨俣川 川口迄森部村北枝

森部 川北今ケ渚村境

壹ヶ年二

御運上金貳両貳分

但当未三月四日より来ル子三月四日迄

五ヶ年限り

右上納金毎年四月十日上納

右之通り落札ニ被為仰付可被下候、以上

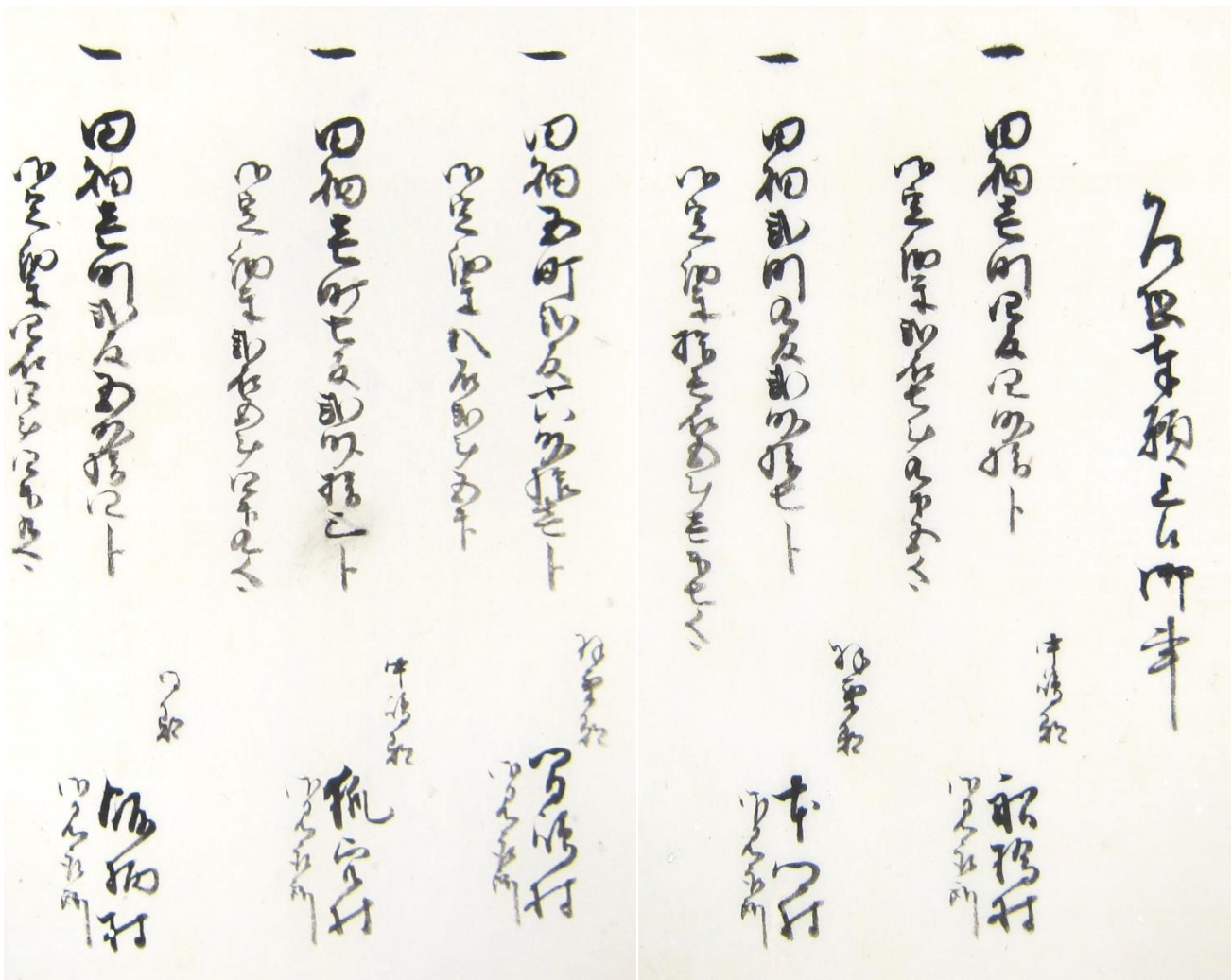
未 羽栗郡本郷村庄屋

三月 善六

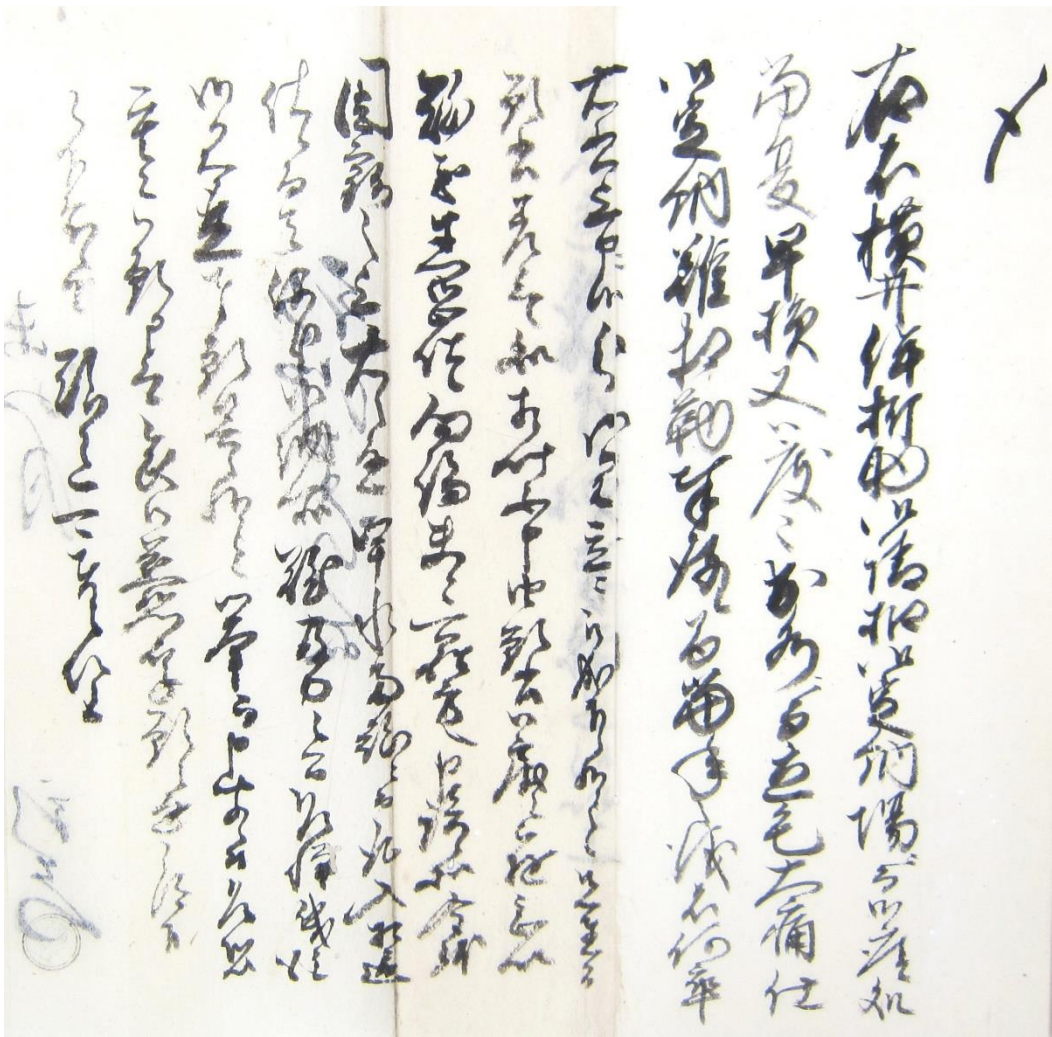
御国方

御役所

【史料三】



「以下四行目から貼紙」



乍恐奉願上候御事

中嶋郡

一田畑壹町四反四畝拾歩

船橋村

御定納米貳石七斗九升五合

御見取所

羽栗郡

一田畑貳町九反貳畝拾七歩

本郷村

御定納米拾壹石五斗壹升七合

御見取所

羽栗郡

一田畑五町貳反六畝拾壹歩

間嶋村

御定納米八石貳斗五升

御見取所

中嶋郡

一田畑壹町七反貳町拾三歩

狐穴村

御定納米貳石五斗四升七合

御見取所

同郡

一田畑壹町貳反五畝四歩

飯柄村

御定納米四石四斗四升九合

御看取所

又

右者、横井伊折助御請控御定納場ニ而御座候処、
当夏早損又ハ度々出水ニ而、立毛大痛仕、
御定納難相勤奉存候間、当年之儀者、何卒
「右書上申候分、御見立ニ被成下候様ニと、先達而
願書差上候処、相叶不申由、願書御戻し被遊、甚以
難義迷惑仕候、勿論夫々百姓方へ申談候処、全体
困窮之上、右之通旱水兩絶ニ而、取入相違
仕候而者、何分御納所難及力候間。乍憚幾重も
御見立奉願筈候様ニと、挙而申聞候付、乍恐
重々御願申上候、哀御慈悲厚願之通、被仰付
被下置候ハ、難有可奉存候、以上」

〔以下四行は元文書〕

右者、横井伊折助御請控御定納場ニ而御座候処、
当夏旱損又ハ度々出水ニ而、立毛大痛仕、
御定納難相勤奉存候間、当年之儀者、何卒
〔御見立被成下候様奉願上候、以上〕

舟橋村庄屋
勘兵衛（印）
本郷村庄屋
善六（印）
未
八月 間嶋村庄屋
小伝次（印）
狐穴村庄屋
新兵衛（印）
飯柄村庄屋
安右衛門（印）
朝比奈代助様

【史料四】

乍恐口上之覚
羽栗郡本郷村給仕人
宇右衛門
金次郎事
助七
彦八
治平
未
四人

今般朝鮮人来朝ニ付起宿江給仕
被為仰付奉畏候右之通罷出相勤申候
為其以書付申上候以上
未
右村庄屋
十月 善六
郡御奉行所

右者、横井伊折助御請控御定納場ニ而御座候処、
当夏旱損又ハ度々出水ニ而、立毛大痛仕、
御定納難相勤奉存候間、当年之儀者、何卒

〔御見立被成下候様奉願上候、以上〕

舟橋村庄屋

勘兵衛（印）

本郷村庄屋

未 善六（印）

八月 間嶋村庄屋

小伝次（印）

狐穴村庄屋

新兵衛（印）

飯柄村庄屋

安右衛門（印）

朝比奈代助様

乍恐口上之覚

羽栗郡本郷村給仕人

宇右衛門

金次郎事

助七

彦八

治平

未 四人

今般朝鮮人来朝ニ付起宿江給仕

被為仰付奉畏候右之通罷出相勤申候

為其以書付申上候以上

未 右村庄屋

十月 善六

郡御奉行所